

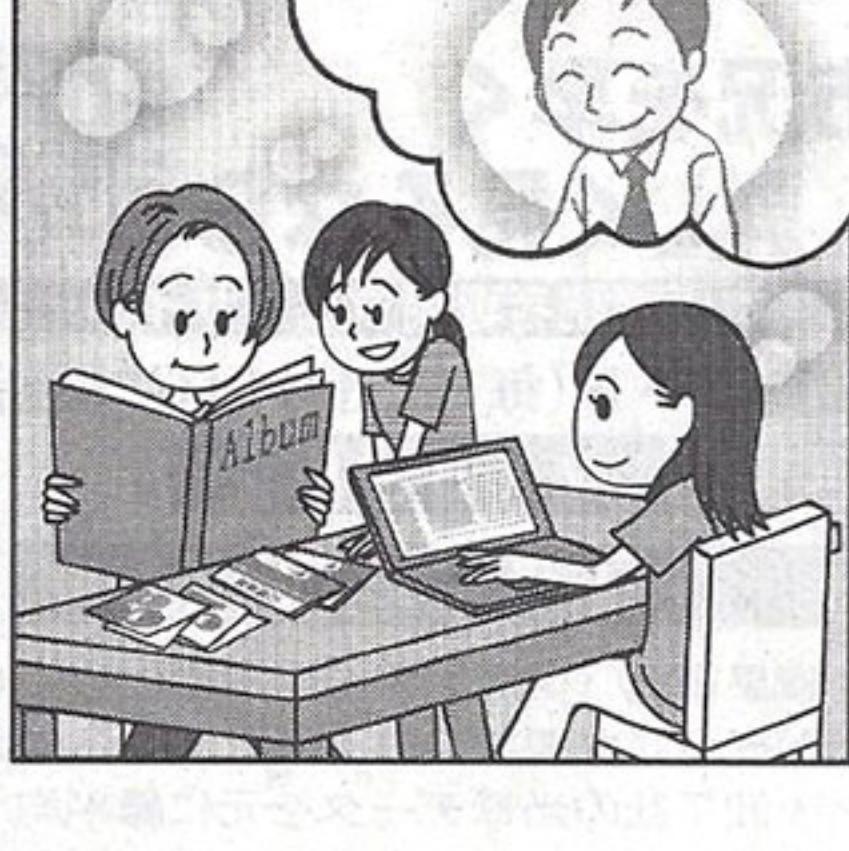
人生の仕舞い方



先日、大切な友人が亡くな
りました。48歳です。「退院
するよ」と3月に電話をもら
ったのですが、体調が悪いと
聞いたので、偶然ですが亡く
なる前日、お見舞いに行きました。
既に意識は混濁していました。
私が来たのが分かったのか
不明ですが、名前を呼ぶと声
と手で反応してくれました。
まだ20歳にならないお嬢さま
や奥さまのことを「よろしく

又続の愛憎 五郎の恋

残される家族のために



亡くなつた翌日、ご家族と一緒に納棺やお葬式の打ち合わせ、自宅での写真データ探しなどをしました。葬儀社との打ち合わせの際にお兄さまがいらっしゃって、お墓の希望や、どちらのお寺さんで葬儀をするのかなど「本人の希

「…」と、詳細に話をしていました。病気の最中に困るであろうことはしつかり身内に話していく、生命保険のことなど、すぐに使うものの情報がありました。そして自宅でも「彼の生前の思い」を感じました。家族が困らないように、全てのパスワードは分かりやすいデータになっていたし、日本のパソコンのパスワードも少し考えると分かるようになっていました。

「いつもパパがお帰りと
てくれたんだよ」など、
のお嬢さんたちからは
「パパ」の話を一日中たくさん
きました。

過ぎる死は残念でなりませんが、彼が生前にしつかり分の終活をしていたことじ、やっぱり大切なこと彼から教えてもらいました「今」だからできることたくさんあります。皆さんひ、終活をして後悔のな生にしてください。

活力

活

(次回は6月12日付)